

令和3年度 漢字の基礎・基本の徹底(1学期)～取り組みと課題～

1学期末の漢字50問テストの学校平均(2～6年生) 86.5点

2年生

【取り組み】

- ・クラスでは、厳しく採点をする分、満点だったときは、100点取ったで賞の賞状を渡すと約束していたので、モチベーション高く、テスト勉強ができていました。
- ・朝学の時間を使って、10日間ほど練習に取り組んだ。
(間違いやすい漢字を寄せ集めたプリント(手作り)を使って)

【課題】

- ・七「画」を七「書」と書き間違える
- ・「話」と「読」の書き分け
- ・「頭」と「地」のはらい
- ・「数える」と「教える」の書き分け
- ・「丸」と「風のはらい
- ・間違いやすかった漢字「黄」「考」「読」「地」「分ける」
- ・「数える」と「教える」の勘違い

3年生

【取り組み】

- ・1週間前に範囲を知らせて、空き時間や宿題(自学ノート)で取り組んだ。
- ・漢字ドリルを繰り返し書く。(大テスト前にもう一度全て書いた)

【課題】

- ・新聞記「事」、古い書「物」
- ・送り仮名の問題の正答率が高い。単語の1文字だけを切り取って書くのが苦手。
(例「出発」は書けるが、出「発」は書けない。)
- ・漢字が苦手な児童に対しての取り組みが課題。
- ・書「物」が書「持」になり、漢字と意味が繋がっていないということが分かった。
- ・間違い＝言葉の意味を理解していないもの(例 記「事」、書「物」、近「所」)

4年生

【取り組み】

- ・小テストは練習法に「けてぶれ(計画⇒テスト⇒分析⇒練習)」を取り入れた。
- ・2週間前からテストにを伝え、自主学をするように伝えていた。(週に一度、自主学の様子を確認した。)
- ・漢字10～15文字進んだら、読みと書き取りの中間チェックテストを行う。(1学期は計11枚行った。)

【課題】

- ・「順」と「訓」など似た漢字の間違い、「幸せ」と「達」の横線の数の違いの間違いも多かった。
- ・子どもたちの中で大きな差が開いてしまった。差を狭めるために、日頃の小テストで平均8割以上とれるように、宿題の出し方にも工夫していきたい。
- ・「観」「連」などの漢字の間違い
- ・わかってはいたけど、間違いというパターンが多かったため、見直しをしっかりとする必要がある。

5年生

【取り組み】

- ・子どもたちが自分の課題に向かい努力を重ねていました。前回のテストより点数が下がった児童は一人もいませんでした。
- ・テストの平均を上げることも、自分の前回を超えるために努力をしようという話をしました。大テストではできても、今できるかはわかりません。大切なのは、知識の基礎・基本ではなく、学習に向かうための基礎・基本を子どもたちに考えさせることだと思います。
- ・1週間前からテスト勉強という宿題を出した。取り組み方は、自由にしたが、効率的でない学習の仕方を行っている児童が多かった。⇒2学期から方法を提示していく。
- ・4・5月で大テストをする時に、学期末テストと同じ方法を取ったので、自主的に学習することに慣れていた。
- ・今回も、一回で合格点(80点)に達した子どもが多かった。

【課題】

- ・「構内」「現す」のミスが多かった。
- ・一部の漢字学習が苦手な子どものチカラを伸ばしていくこと。

6年生

【取り組みと課題】

- ・1週間、自主的に取り組んでもらいました。自分で計画的に問い組んでいた児童は点数にもその努力が現れていた。
- ・学習方法がわからないと悩んでいた児童もいたため、2学期は学習方法を共有する時間を取りたい。
- ・テスト前に自主学習の宿題を出し、学習させた。

2学期・3学期に向けて

漢字が苦手な子に対しては、漢字小テストを半分ずつ(10問テストであれば、5問ずつ2回に分ける)にしたり、再テスト形式(2回練習して小テスト⇒合格できなかった場合は、もう1回練習して再テストにチャレンジ)にしたりするなど、「できた!!」に少しでもつながるようにする。「できなかったこと」ではなく、「できたこと」に目を向けられるようにする。

また、成果指標として平均点で見取るが、子ども一人一人に対しては、今回のテストで自分の今の実力が分かったと思うので、次回のテストでは、「1学期よりもどれだけ伸びたか・伸びなかったか」の視点で、自分自身と戦えるように、声掛けをしていく。そのために、友だちの勉強法(自学ノート、漢字ドリルへの書き込み)を紹介するなど、漢字テストに前向きに取り組めるようにする。